

常楽寺の宝塔と五輪塔

じょうらくじのほうとうとごりんとう



文化財愛護シンボルマーク

名 称	常楽寺の宝塔と五輪塔	時 代	鎌倉時代、正和4年(1315)8月
別 称	石造宝塔並びに五輪塔2基、常楽寺の正和4年宝塔・常楽寺の五輪塔(右塔)・常楽寺の五輪塔(左塔)	所 在 地	加古川市加古川町大野1762
数 量	宝塔1基、五輪塔2基	管 理 者	常楽寺
法 量	宝塔 現高237cm 五輪塔(左塔) 総高173cm 五輪塔(右塔) 総高184cm	指 定	兵庫県指定文化財
材 質	各石造、宝塔は花崗岩製、五輪塔は各凝灰岩(竜山石)製	指定分類	建造物
		指定名称	石造宝塔並びに五輪塔2基
		指定年月日	昭和36年(1961)8月23日



常楽寺の宝塔と五輪塔

ひおかやま ふもと
日岡山の西の麓、加古川町大野の常楽寺の庫裏の下、新井用水の流路のすぐ上の墓地入口に、左右に五輪塔を伴った立派な石造の宝塔が立っています。

宝塔は、円筒形の塔身に方形の屋根を被せ相輪を載せた石造品で、真言密教の影響が強い造形と考え

られています。また、五輪塔は、密教の五大思想をちりん すいりん かりん ふうりん くうりん
地輪、水輪、火輪、風輪、空輪で表現した石造卒塔婆で、供養塔または墓標として立てられます。

中央の宝塔は、花崗岩製で、相輪部分の請花と宝珠が欠けていますが、屋根の降棟を二段に彫り、

塔身軸部の扉の金具まで表すなど精巧な表現をしています。塔身の扉の間には銘文が陰刻されており、正和4年(1315)の造立であることがわかります。

左右の五輪塔は、いずれも凝灰岩(竜山石)製で、無銘ですが、宝塔と同じ頃に造られたものと見られます。



宝塔銘文拓本

〔宝塔銘文〕

正和四歳乙卯八月日
願主沙弥道智



常楽寺の宝塔と五輪塔全景

この宝塔は、市内最古のもので手法的にも優れた貴重な遺品であり、同じく五輪塔も、完全な形のものとしては市内最古のものと考えられます。

これらの塔について、江戸時代の地誌『播磨鑑』に「文勸慈母堂」として載っています。中央の塔は、北条郷大野出身で、南北朝時代に醍醐寺座主などとなり活躍した文観上人が、母の追善のために建てたもので、その下には、骨箱と考えられる器を入れた壺を納めた石棺が埋められていると記されています。また、西の塔は、仲間のための塔と伝えられています。

(拓本／『加古川市史 第7巻』から転載、文・写真／宮本)

『播磨鑑』の記載

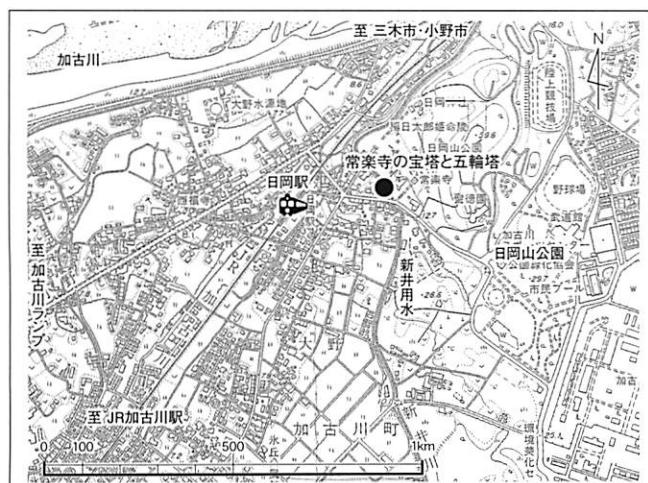
文勸慈母堂 三基 今安養坊ノ下、在新井流ノ上ニ一昔、小野文勸大僧正、當常楽寺中興開基の由にて慈母を此處ニ葬ル、則、中尊ハ母ノ塔也、西脇ハ法眷ノ塔也と云
中尊ノ塔碑文ニ曰、正和四年乙卯八月日ト有、又、此塔ノ下ニ横三尺ニ長サ六尺ノ石函を埋ム、其中ニ壺一箇有、壺の中に黄金の器有、其頌文ニ曰、寶生山常楽寺院主文勸大僧正菩薩比丘弘信、為母遺骨納之

●参考文献

- 『播磨鑑』平野庸修(1762年頃成立)
- 『兵庫県大百科』神戸新聞出版センター(1983年)
- 『加古川市史 第7巻』加古川市(1986年)、

●キーワード

建造物、石造宝塔、石造五輪塔



●所在地／加古川市加古川町大野1762

●交通／JR加古川線「日岡」駅から北東へ徒歩3分
車は加古川バイパス「加古川ランプ」から北東へ2 km